

# 活動報告書

報告日付:2019年4月12日

事業ID:2017458539

事業名:大阪府箕面市における  
第三の居場所の運営  
(2年目)

団体名:特定非営利活動法人  
トイボックス

事業完了日:2019年3月31日

## 1. 事業内容

大阪府箕面市における第三の居場所の運営

(1)日時:2018年4月1日~2019年3月31日

(2)場所:大阪府箕面市

(3)内容:「家でも学校でもない第三の居場所」をつくり、そこで社会的相続を補完する。拠点には専門スキルを備えたスタッフを配置し、子どもとの1対1の関係を重視しながら、子どもたちの生活習慣形成や学ぶ意欲向上を支援する

## 2. 事業内容詳細:

対象世帯に該当する小学生を対象に、放課後から夜の20時までの時間を利用して、学習支援事業、居場所づくり事業、食事の提供、体験型学習の機会提供、非認知能力の育成、メンタルケア事業をおこなう。また、保護者の相談事業や保護者にとっての居場所の役割も担う。学校や各種関係機関との会議、ケース会にも参加し、家庭の課題や一人ひとりの子ども達の特性を踏まえ、きめ細やかな支援体制を構築している。

## 3. 契約時事業目標の達成状況:

### 【助成契約書記載の目標】

- ① 拠点利用児童の募集
- ② 児童への居場所・読み聞かせ・学習支援・食事の提供
- ③ 保護者、地域、行政との関係構築
- ④ 全国展開に耐えうる事業モデルの構築

### 【目標の達成状況】

#### ① の達成状況…

箕面市教育委員会、対象小学校との連携のもと、児童募集をおこなう。保護者と子どもが興味をもちやすいチラシを作成した。また、チラシにQRコードを添付し、保護者が問い合わせしやすい工夫を施した。これらの効果もあり、全児童が対象世帯に該当するため、拠点利用料は無料である。

#### ② の達成状況…全開所日において100%実施した。

みのお拠点が子ども達にとってほっと一息つける居場所になるように、子ども一人ひとりの個性や特徴、家庭環境に配慮した支援計画を作成し、子どもの背中をそっと後押しできる支援に力を入れている。学習支援や生活習慣形成支援に加え、非認知能力を育む取り組みを行っている。みのお拠点では子ども達が育むべき非認知能力を、生き抜く力と定義し、その力の育成のために、主に3つの取り組みをおこなっている。

1つは、豊富な体験の機会を提供する時間を毎日設けている。(名称:わくわくたいむ)2つ目は、子ども達が共同で1つのプロジェクトに挑戦する取り組み(名称:わくわくプロジェクト)である。3つ目は、施設外で豊富な体験の機会を提供する取り組み(わくわく課外活動)である。

図1.季節を感じるイベント「わくわく流しそうめん」



図2.わくわくプロジェクト～ハンドベル&カップス演奏～



図3.わくわくお泊り遠足in高知



③ の達成状況…各関係機関、保護者との関係構築のため様々な取り組みを行った。

保護者との関係:保護者とスタッフとの信頼関係構築に向けて様々な取り組みをおこなってきた。

例えば、子どもの送り迎えの際に児童の様子を各保護者に伝え、また、その時間を利用して保護者にハーブティーを提供し、保護者にも拠点の中で、ほっと一息つく時間をもってもらう「パパママカフェ」、また保護者を夕食に招く「パパママ夕食会」や、保護者の参加型遠足の実施「和歌山マリナーシティに行こう」、さらに保護者の子育てや家庭の悩み相談にお答えする「1on1相談会」もおこなっている。

学校との関係:学期に1回程度、学校・箕面市・みのお拠点で通所児童の情報共有や、子ども支援の協議をおこない、関係機関と連携を図っている。学校長や生徒指導の教諭と信頼関係が構築できており、適切で迅速な対応がおこなえる体制が整いつつある。

地域との関係:みのお拠点は近隣に市の開放教室(中学校の空き教室を市民に開放している部屋)があり、市民の方々からお声がけを頂く機会は多い。今後、わくわくたいむなどで連携を図っていきたい。

行政との関係:緊密な連携を取り、相互に情報共有をおこないながら、私たちのケアを必要とされるご家庭に情報を届け、利用へとつなげている。また、通所決定後も、一人ひとりの子ども達にあったケアを届けるために、児童に関わる情報を随時共有している。

図4.保護者参加型遠足～和歌山マリナーシティに行こう～



#### ④ の達成状況…全国展開に耐えうる事業モデルの構築を行っている

①～③について、地域性、スタッフの属人性、通所児童や対象家庭の属人性に関わらず、みのお拠点の運営をおこなえる体制づくりを念頭に運営している。拠点のプログラムや、スケジュール、またそれらをスムーズに運営するための工夫やノウハウを蓄積し、他拠点(箕面市の2つ目の拠点)への展開を目指している。

#### 2.事業実施によって得られた成果:

第三の居場所への通所以前、通所以後で児童の様子に変化が見られる(宿題の提出率、授業中の態度、暴言やきつい言葉遣いなどの減少)というご意見を学校や家庭から頂いている。また、みのお拠点で力を入れている、意欲や仲間と力を合わせる力、最後までやり抜く力などの生き抜く力育成の点でも、成果が見られている。

保護者からは「大人にとってもみのお拠点は、ほっと一息つける居場所になっています。」「子ども達

の目がいきいきしていて、私まで嬉しい気持ちになります。」とのご意見を頂いている。

### 3.成功したこととその要因

申請時の目標に対応するかたちで、成功したこととその要因について記載する。

#### ① 利用拠点児童の募集:

要因:保護者と子どもが興味をもちやすいデザインのチラシを作成し、またチラシにQRコードも掲載して、保護者が問い合わせしやすい工夫を施した。さらに、通所が確定した児童一人ひとりの支援計画を作成し、子ども対応を丁寧におこなったことが、児童の通所以降の様子の変化や、保護者の評判を生み、学校や箕面市から積極的にみのお拠点を紹介していただけるようになった。

②子ども支援の充実(子どもの居場所づくり、食事の提供、学習支援、生活習慣支援、非認知能力形成支援):子ども一人ひとりにあった支援計画を作成し、スタッフ全員でアクションプランを共有して、チーム体制で子ども支援をおこなっている。また、非認知能力を育む時間(わくわくたいむ、わくわくプロジェクト、わくわく課外活動)を毎日継続して提供している。

これらの取り組みは、子ども達に豊富な体験を提供するとともに、その中から子ども達が自分の好きなこと、夢中になれることを見つけることに繋がっている。また、保護者からは「ひとり親家庭の私一人では、ここまで子ども達のやりたいことに付き合ってもらえない。感謝しています。」「子どもがどんどん意欲的になって嬉しい」との感想を頂いている。

要因:みのお拠点の理念や運営方針をスタッフ全員で協議したこと、それを踏まえてスタッフの持ち味を考慮しながらそれぞれの役割分担を明確にしたこと、また、日々の様々な会議の目的を明確にしたことが挙げられる。

③保護者、学校、地域、行政との関係構築:各機関と関係を構築し、情報共有をおこない、子と親への適切な支援体制を構築しつつある。

要因:箕面市が各関係機関と拠点との間に入り、つなぎ役を担われていることが大きな要因である。また、一人ひとりの子どもに丁寧に向き合い、ケアを施していくことが、学校や家庭での子どもの言動の変化としてあらわれ、各関係機関とのさらなる信頼関係に繋がっている。

④全国展開に耐える事業モデルの構築:拠点のプログラムや、スケジュール、またそれらを適切に運営するための工夫やノウハウを蓄積し、他拠点(箕面市での2拠点目)に展開する準備をおこなっている。

要因:拠点運営の理念を作成・共有したこと、子ども達が守る拠点のルールを作成・共有したこと、フラットな組織でありつつもスタッフ全員に役割がある組織体制を確立したこと、情報共有体制を確立したこと、スタッフの身体的精神的な疲弊を防ぐ取り組みをおこなったことなどが挙げられる。

### 4.失敗したこととその要因

申請時の目標に対応するかたちで、失敗したことについて記載する。

① 利用拠点児童の募集:今年度の12月ごろまで児童募集に苦戦した。

要因:対象家庭の保護者がみのお拠点に問い合わせしやすい工夫が足りなかったことが要因である。今後は、これらの工夫に加え、対象小学校に併設されている児童クラブとの連携を強化し、児童募集をすすめていきたいと考えている。

③保護者、学校、地域、行政との関係構築:地域との関係構築に関しては、まだ発展の余地があり、子どもに寄り添っていただける地域の方との連携にも力を入れていきたい。

要因:これまで保護者・学校・行政との連携に力を入れてきたことと、児童数が増加した中での拠点運営に人手を割いてきたことが要因である。

7.活動を通じて明らかになった新たな課題と対応案:

上述したように、学校や箕面市、また各種関係機関との連携により、家庭の課題や一人ひとりの特性に応じた細やかな支援体制が構築できつつある。これまでおこなってきた「パパママカフェ」や保護者を夕食に招く「パパママ夕食会」を引き続きおこないながら、拠点内に子ども達の写真や作品などを飾り、保護者とコミュニケーションを図るといった仕掛けを施したり、保護者が誰かに話を聞いてもらいたいときに、気軽に立ち寄ってもらいやすい仕掛けをおこなっていく。

---

事業成果物:

【成果物の名称】事業完了報告書

【成果物がアップロードされているCANPANのURL】